

症状が起こる原因の解説。

「ヘルペス性高血圧・不整脈・頭痛の 発症機序について」 徳弘徳子 79歳

2017年2月24日

私の考えでは、心臓表面を覆う上皮細胞である心外膜ですが、心臓がスムーズに動くために心臓の回りに重の袋構造で、ごく少量の液が潤滑油のような役目で存在しています。その心外膜にヘルペスウイルス（私の場合はHSVかEBV）が感染して、特に就寝中は副交感神経が優位になり免疫が元気になって、免疫とヘルペスウイルスの戦いで冠動脈の狭窄が起こり心筋炎を発症します。心筋収縮力上昇、血管拡張が起こり、その後血管平滑筋収縮、その結果血流が減少し血圧を上げ、脈拍数も上げ（不整脈）が出現するのではないかと思います。

症状は心臓の圧迫感、動悸、脈拍が早くなる、頻尿、眼前に白い物が左右する、特に左首が凝る、歯が浮く（左側顔面も腫れる）耳鳴り、左足首も痛む。夜中トイレに起きると194 103 77（不規則脈波） 食事中も急に気分が悪くなり食事を止める186 88 80

いずれの症状の時も落ち着く迄は安静にします。症状が起こっても、何処で、何が原因で、何が起こっているのか？が判れば、少しは落ち着いて遣り過ごすと言うか、状態が改善される迄、我慢することも出来易いのではと思います。

例えば、頭痛です。三叉神経、脳の血管神経、ヘルペスこの3つが深く関わっています。脳の血管神経を支配する自律神経に感染したヘルペスと脳の免疫細胞である（ミクログリア外）との戦いによって炎症が三叉神経の知覚神経に反射弓を通じて痛覚反射として頭痛を覚えるのです。